

# B-3 「渋い色」の考察（第1報） —植物染料染色布の色彩分析—

県立新潟女短大 山崎 光子

1. 色名の修飾語には種々あり、はで、じみ、明るい、暗い等は色の三属性と関連づけて系統的に整理されているが、「渋い色」については明確でない。「渋い色」は我国の歴史が生みだした貴重な色であり、近年、欧米人によって脚光を浴びている。その美的価値の高い、配色の調和度も優れている「渋い色」の要因を色彩科学的に追究し、これからの服飾における色彩選択への足がかりとしたい。何を渋い色ときめるかについては個人差もあり複雑な要素がからむため、本研究では植物染料による染色布を「渋い色」とし、合成染料染色布との比較の上から検討した。

2. (1)植物染布は本学染色研究室で一定条件のもとに染色し、合成染料は近似した色の多い日本流行色協会の日本伝統色を用いた。(2)両者を赤、黄、緑、青、紫系統の色に分類し、測色計によりCIE表示方式で反射率と $x$ 、 $y$ を測り、色度図から主波長、刺激純度を求め、各色とも主波長 $\pm 5$  nmの巾で30~40色選び出した。(3)近似主波長グループについて、植物、合成染布にあらわれた反射率、刺激純度の差を比較検討した。

3. 各々の色系統によって多少の差異はあるが、植物染布は一つの共通した特性をもつことがわかり、それが「渋い色」の要因と考えられる。